

実データ (GEONET) とシミュレーションの比較

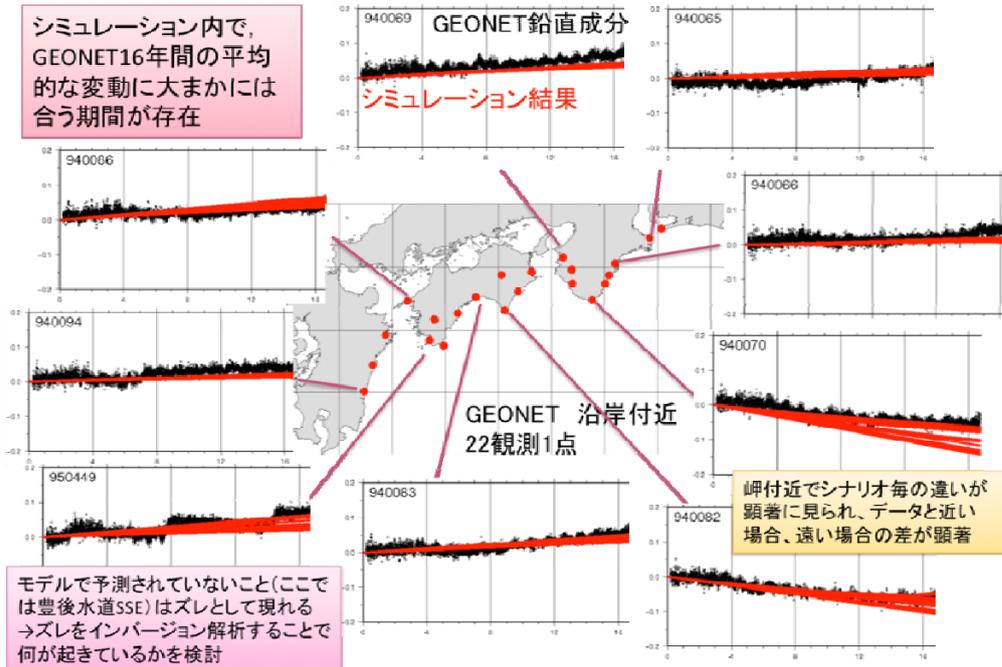


図12 実データとシミュレーション結果の比較. GEONETによる1996年以降の西南日本での上下変動と、固着域の範囲を様々に変えた地震発生サイクルのシミュレーション結果を比較した. その結果、紀伊半島先端などでデータに見られる時間変化と整合する結果とそうでない結果が明瞭に区別できるとともに、豊後水道SSEのようにシミュレーションに含まれない現象が、データとのずれとして認識できる. (海洋研究開発機構[課題番号: 4007])

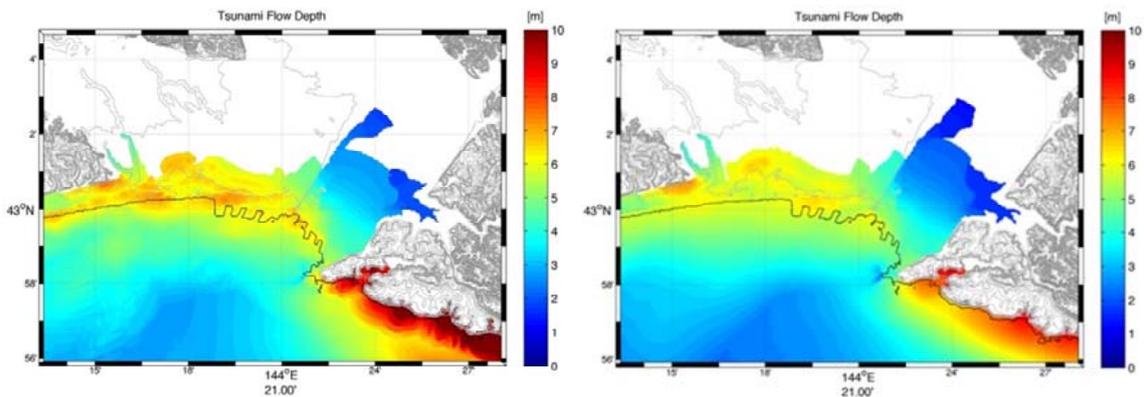


図13 北海道太平洋沖17世紀巨大地震の断層モデルから計算された釧路市での津波高(左)とリアルタイム津波浸水域予測手法により抽出された津波高(右)の比較. (北海道大学[課題番号1006])

20 min after the 2011 Tohoku earthquake (Mw 9.0)

tFISH/RAPiD

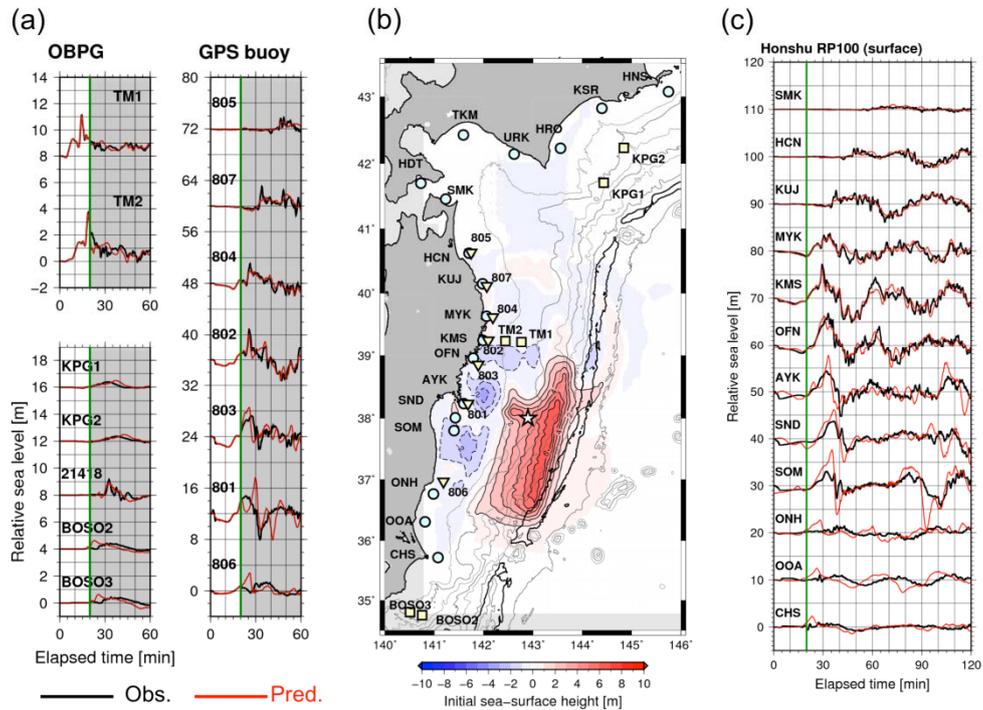


図14 2011年東北地方太平洋沖地震を仮定した数値実験における、同地震発生後20分までに得られる沖合津波波形を用いてtFISH/RAPiDで津波予測した結果.

(a) 沖合津波観測点における観測波形（黒線）と計算波形（赤線）の比較. (b) 沖合津波波形の逆解析で求めた初期水位分布. (c) 本州の太平洋沿岸に沿った水深100 m地点における観測津波波形（黒線）と予測津波波形（赤線）の比較. (a)と(c)の緑線は、予測計算を実施した時刻を示す（地震発生後20分）.（東北大学[課題番号：1221]）

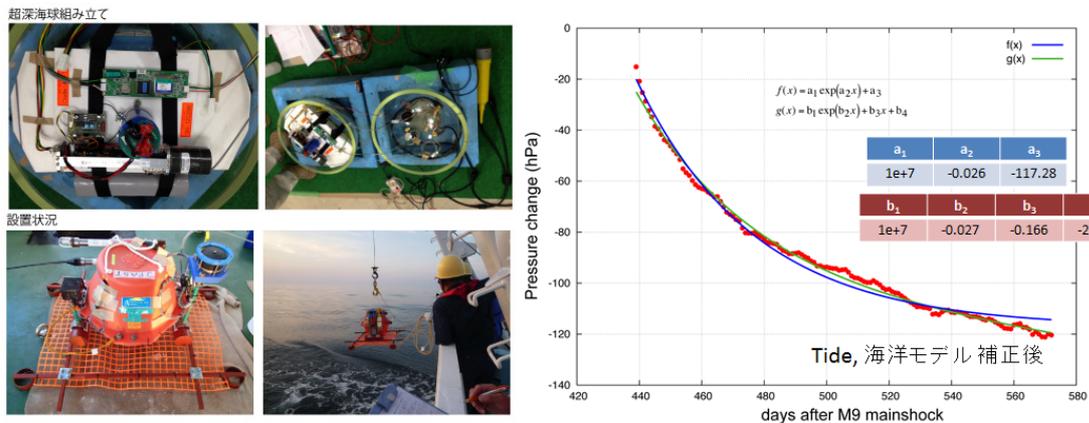


図15. 開発した超深海型圧力計と設置風景（左），圧力の計測結果（右）（東北大学[課題番号：1222]）